生活クラブでんき推進のための資料

あなたの“選ぶ”が未来をつくる。

～電気を選んで、原発はＮＯ！～

3.11の東日本大震災から13年が経ちます。いまだふるさとを追われ暮らしている方は約2.7万人。終息には程遠い現実があります。福島県の人口は、震災前は約203万人でしたが、2023年は約176万人で、この13年の間に27万人以上も減少しています。これは一つの中規模の市が消滅したことになります。ひとたび事故が起これば大きなリスクが課せられる原子力発電ですが、政府は2030年に向けても電源構成比20～22％を原子力発電に依存しようとしています。現在稼働中の原発はすでに10基（2基停止中）。稼働予定には築40年以上という老朽化した原発も含まれています。

首都圏に暮らす大量の電力消費者の私たち。消費者が声をあげて発信していかなくては世の中の構造が変わっていきません。使う電気を選ぶこと。是非、皆で取り組んでいきましょう！

◆顔が見える発電所

生活クラブがつくった電力会社、㈱生活クラブエナジーが再生可能エネルギーを調達して私たちの家庭に送ってくれます。「生活クラブでんき」の契約者は約18,000件なりました｡

生活クラブエナジーが調達する電源は、生活クラブや提携生産者がつくる太陽光発電や風力発電の他、市民発電所等からとなり、今後も調達先を広げています。2012年、秋田県にかほ市に生活クラブ風車「夢風」を自前で建設し、発電のみではなく建設地であるにかほ市との交流、連携もすすめています。2014年の9月からは、帰還の始まった飯舘村で「コメつくれぬのなら電気をつくる」と、メガソーラーやソーラーシェアリングで電力会社を始めた「飯舘電力㈱」や、それを後押しした200年以上続く造り酒屋の佐藤彌右衛門さんが率いる、町民や地元企業が出資し、その収入を地元に還元し、地域のエネルギーと経済自立を実現する「会津電力㈱」とも、手を結んでいます。そして、私たちのお米の主産地である山形県遊佐町では、市民ファンドによって山間部（採石場跡地）に建設されたメガソーラーからも調達しています。

◆消費材の生産者も生活クラブでんき

生活クラブたまご、新生酪農、エスケーせっけん、平田牧場、米澤製油、重茂漁業協同組合、美勢商事など、消費材の提携生産者も生活クラブでんきを使っています。

さらに、アウトドアウェアの**patagonia**も、脱原発非火力電力を求め、電源が確かな生活クラブでんきを選び使っています。

手続きは簡単！

契約すると､1～2ヶ月後に電気の供給が始まります｡

電源構成も公開されており､毎月の明細書に記載されています｡

WEB からの申込みだとカード決済ができます。

詳しい資料、申込用紙は、本部、各センターにお問い合わせください｡

（生活クラブ埼玉本部　電話048-424-2763）

生活クラブエナジーＨＰ　https://scenergy.co.jp/